

日刊 動労千葉

83, 2, 15

No. 1266

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電二九三五・六（公衆）〇四七二（22）七二〇七

家族組合を結成しよう

全支部の努力で

2/15 家族組合担当者会議

二月十五日十三時より、動力車会館に於いて「家族組合再建」に向けて各支部家族組合担当者会議を開催し、具体的取組みを決定しました。

今年度中の家族組合結成を決定

会議では、関川委員長が、「今日、国鉄労働運動破壊のための攻撃が激化し、非常に厳しい状況であるが、こういうときこそ家族の協力が必要である。『地域が広範囲』とか、『パートをしている人が多い』とか『育児をかかえている』など、非常に困難性はあるが是非とも結成を実現したい」との、各支部担当者の奮起を促す挨拶を行いました。

つづいて、中野書記長から「どのようにつくることが一番いいのかわかる議論を重ねてきた。国鉄に対する未曾有の合理化、既得権剥奪攻撃をはじめ、仲裁、年金、退職金など相当掘りくずされてきているなかで、これからは家族ぐるみの闘いが必要である」として、三月末日支部家族組合結成に向けた具体的取組みが提案されました。

執行委員会、職場集
会で討論を深めよう

会議は討論にうつり、家族組合のある勝浦、成田支部の担当者から「組合員の理解が一番必要であること」「家族が集まるきっかけとなる企画

どが重要である」との体験談が報告される一方で、「年令層の問題」や「組織化の困難性」など、むずかしい問題点も指摘されました。

会議は、さまざまな意見を参考にしながら、当面「家族組合結成」に向け、各支部で執行委員会、職場集会を開催し、組合員への徹底化と、組合員がまずその気になり努力することを確認して終了しました。



訂正

『日刊』第一二六五号の文中に誤植がありましたので、訂正いたします。正しくは、「一九七八年の三里塚・横堀要塞闘争」です。



最高裁は、特別抗告を認めろ

再審棄却糾弾

2.9 狭山闘争に決起

部落解放同盟東京都連、東京共闘の共催によって開催された2・9狭山闘争は、再審棄却三カ年を糾弾して各地から千二百名が結集、動労千葉からも青年部四名が代表参加とともに闘い抜いた。

われわれは、三年前の高裁四ツ谷による「再審棄却」の差別決定を忘れることはできない。

石川さんの無実を暗黒の差別文

書で葬りさり、そして日帝、最高裁は小名木証言（「犯行現場」の至近距離で「犯行時刻」に農作業をしていた小名木 武さんの「悲鳴も聞かず、人影も見なかった」という証言）という、石川氏

「犯人」虚構を根定からくつがえす決定的証拠を再びみたび葬りさり、特別抗告を棄却しようとしてくる。

中曾根内閣の登場で軍事大國化

・改憲Ⅱ戦争への攻撃の重大な一環として、狭山再審闘争圧殺攻撃が一層強まっている。

今こそ再審貫徹・石川氏実力奪還の成否をかけて、三里塚二期決戦勝利、中曾根内閣打倒へと総決起しよう。

集会後、獄中二〇年、不屈に闘いの炎を燃やしつづける 石川さんの叫びにこたえ、日比谷公園までのデモを貫徹した。